

5.2 ファイル形式作成手順

汎用性の高いファイル形式作成における QGIS および ArcGIS での作成手順は次のとおり。

5.2.1 QGIS での作成手順

想定される活用のタイミングに対応したファイル形式作成は、QGIS を使用した場合、次の手順で行う。

● 読み込むデータが CSV の場合

< 1 : CSV ファイル例 >

CSV の先頭行（ヘッダー／フィールド名）の文字列の 1 文字目は、数字・記号以外にする必要がある。

また、座標値と対応する標識番号等の情報を CSV へ入力しておくで QGIS 上でラベルを表示させることができる (P.3-19)。

< 2 : QGIS での操作 >

① QGIS を起動し、レイヤ(L)やアイコンからデータソースマネージャーを開く(図 5.2-1)。

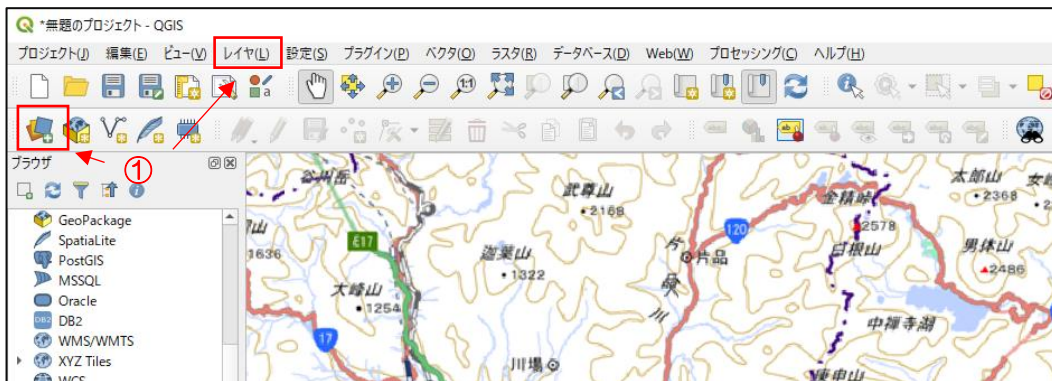


図 5.2-1 QGIS の操作 1

- ② 「デリミティッドテキスト」を選択 (図 5.2-2)
- ③ デリミティッドテキストの項目をそれぞれ選択・入力する
 - ③-1 【ファイル名】座標値の入った CSV を選択する (図 5.2-2)
 - ③-2 【ファイル形式】「CSV」を選択 (図 5.2-2)
 - ③-3 【X フィールド・Y フィールド】CSV 中の座標値が記載された列を選択 (図 5.2-2)
「X フィールドに”Y 座標値”」を「Y フィールドに”X 座標値”」を選択すること。
 - ③-4 【ジオメトリの CRS】CSV の座標値の座標系を選択 (図 5.2-2)
例) 世界測地系 2011 9 系 であれば「JGD2011 / Japan Plane Rectangular CS IX」を選択
対象となる地域の座標系が不明な場合は、「別添資料：国有林野境界情報のデジタル化のマニュアル」の「3.2 境界点座標系の確認」を確認すること
 - ③-5 「追加」をクリック

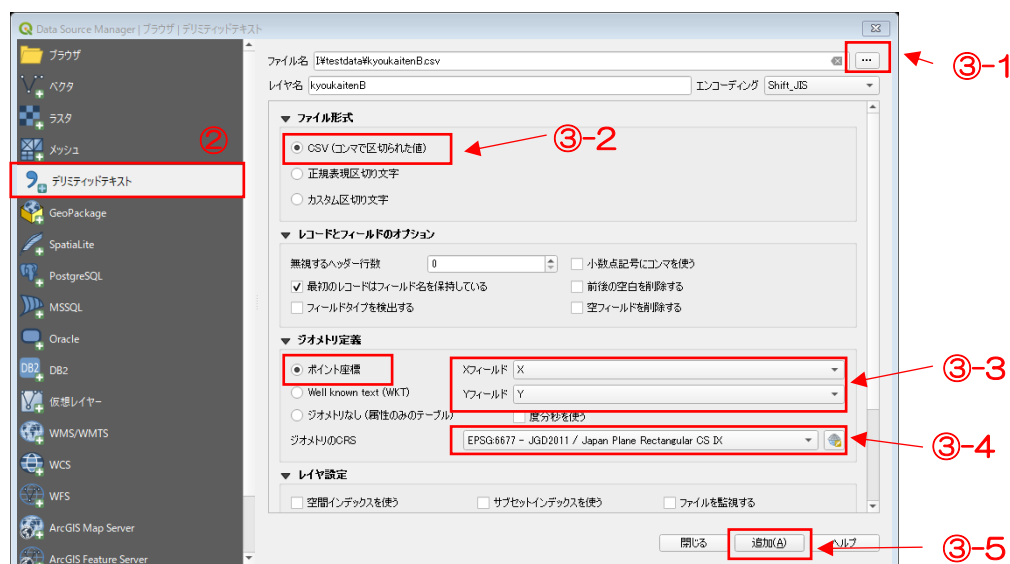


図 5.2-2 QGIS の操作 2

④ 地物を保存する (図 5.2-3)

④-1 レイヤ名を右クリック

④-2 「エクスポート」をクリック

④-3 「地物の保存」をクリック

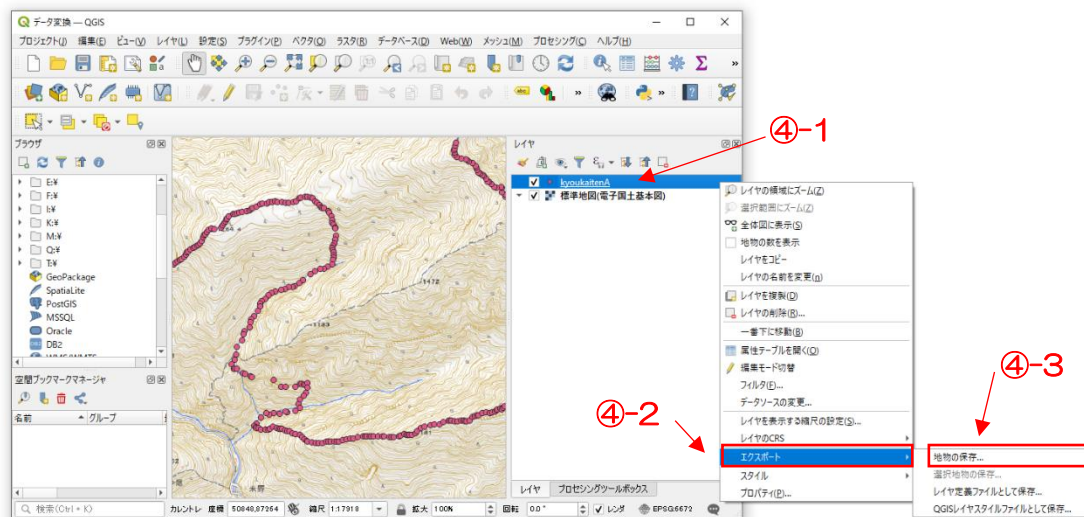


図 5.2-3 QGIS の操作 3

- ⑤ 【形式】 変換したいファイル形式を選択 (図 5.2-4)
- ⑥ 【ファイル名】 データを保存したいフォルダ、変換後のファイル名を入力 (図 5.2-4)
- ⑦ 【座標参照系】 適宜変更する (図 5.2-4)

例) 世界測地系 2011 9 系 であれば「JGD2011 / Japan Plane Rectangular CS IX」を選択
 対象となる地域の座標系が不明な場合は、「別添資料：国有林野境界情報のデジタル化
 のマニュアル」の「3.2 境界点座標系の確認」を確認すること

- ⑧ 必要項目を入力・選択後に「OK」をクリック で作成完了 (図 5.2-4)

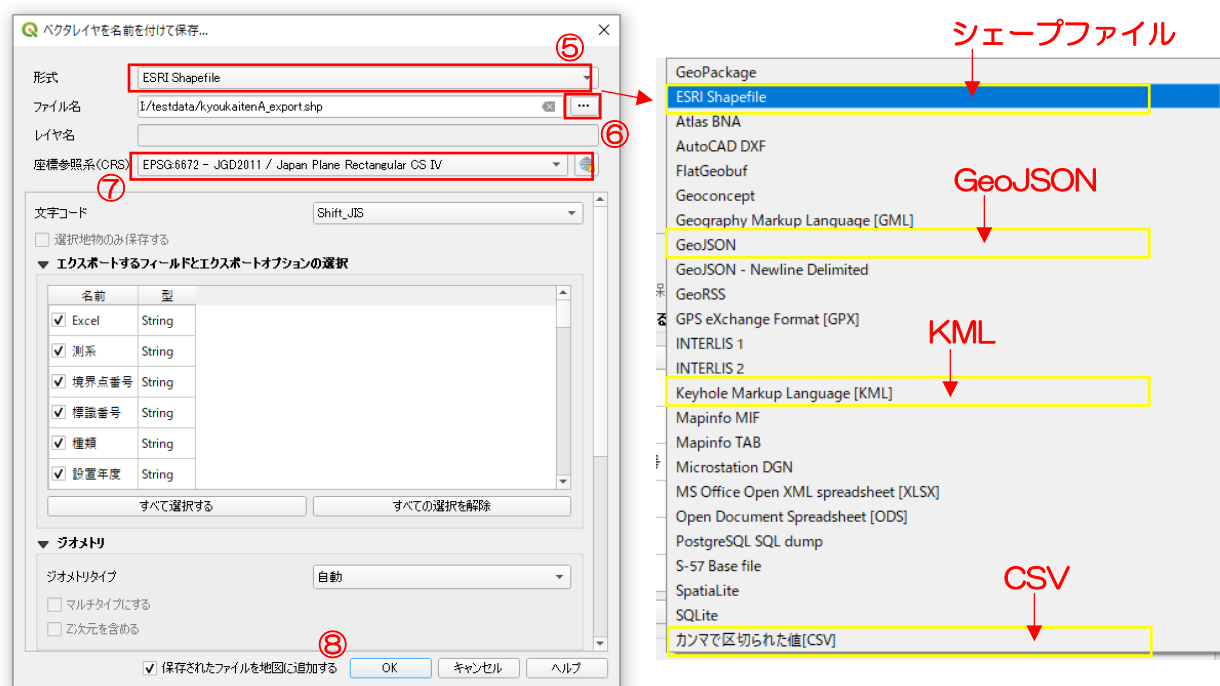


図 5.2-4 QGIS の操作 4

● 読み込むデータがシェープファイルの場合

- ① QGIS を起動する
- ② エクスプローラーで対象データを表示させる
- ③ 拡張子が「*.shp」のファイルを左クリックしながら掴んで、左クリックのまま QGIS の中央まで持って行き、左指を離す（ドラッグ&ドロップする）。

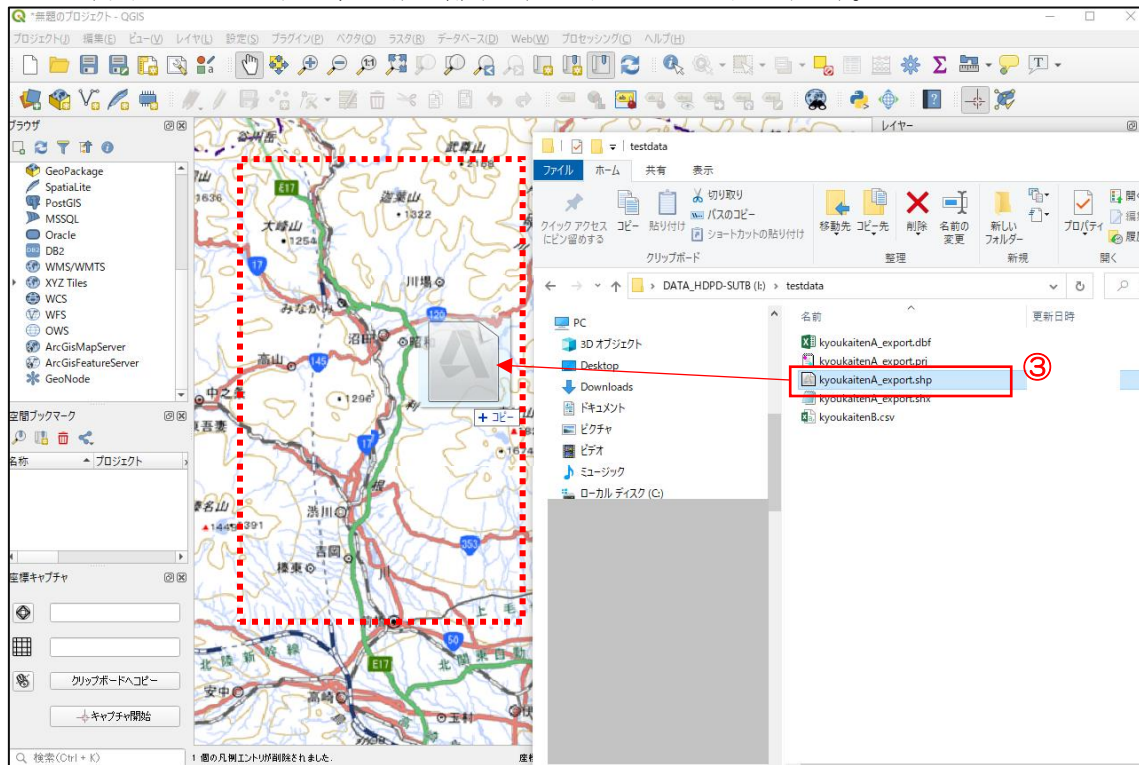


図 5.2-5 QGIS の操作 5

④ 地物を保存する（図 5.2-6）

- ④-1 レイヤ名を右クリック
- ④-2 エクスポート
- ④-3 地物の保存

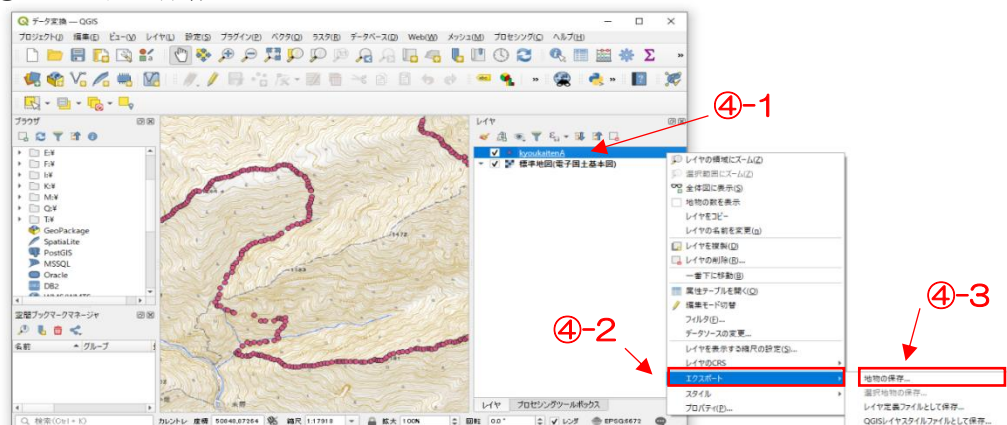


図 5.2-6 QGIS の操作 6

- ⑤ 【形式】 変換したいファイル形式を選択 (図 5.2-7)
- ⑥ 【ファイル名】 データを保存したいフォルダ、変換後のファイル名を入力 (図 5.2-7)
- ⑦ 【座標参照系】 適宜変更する (図 5.2-7)

例) 世界測地系 2011 9 系 であれば「JGD2011 / Japan Plane Rectangular CS IX」を選択
対象となる地域の座標系が不明な場合は、下記の Web サイトを確認すること

国土地理院 : <https://www.gsi.go.jp/sokuchikijun/jpc.html>

- ⑧ 必要項目を入力・選択後に OK をクリック で作成完了 (図 5.2-7)

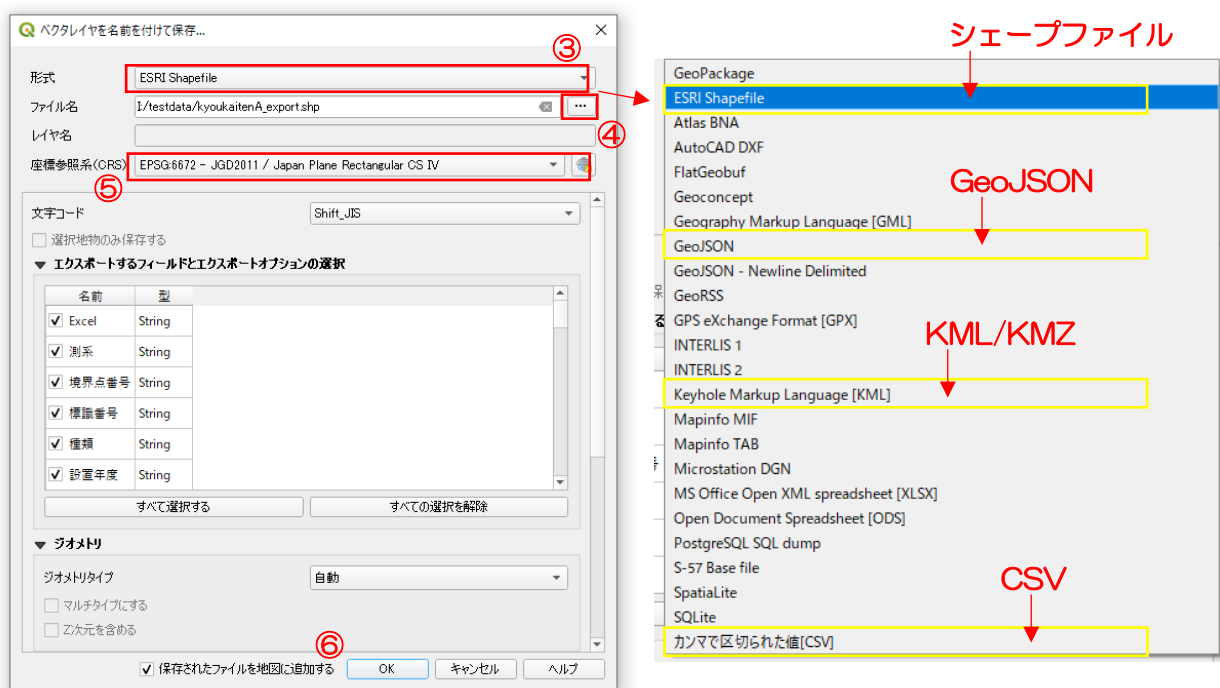


図 5.2-7 QGIS の操作 7

5.2.2 ArcGIS での作成手順

想定される活用のタイミングに対応したファイル形式作成は、ArcGIS を使用した場合、次の手順で行う。

● 読み込むデータが CSV の場合

- ① ArcGIS に対象データを表示する
- ② ArcGIS を起動させ、「データの追加」から対象の CSV を追加する（図 5.2-8）

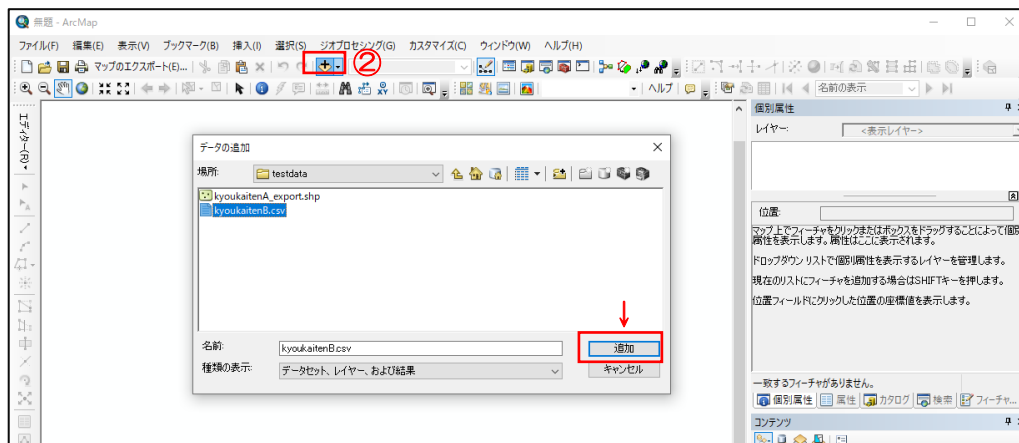


図 5.2-8 ArcGIS の操作 1

- ③ コンテンツウィンドウに入った CSV を右クリックし「XY データの表示」を選択（図 5.2-9）

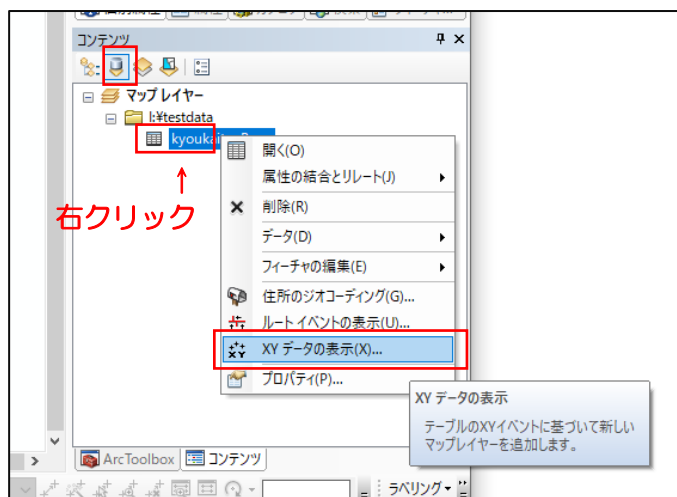
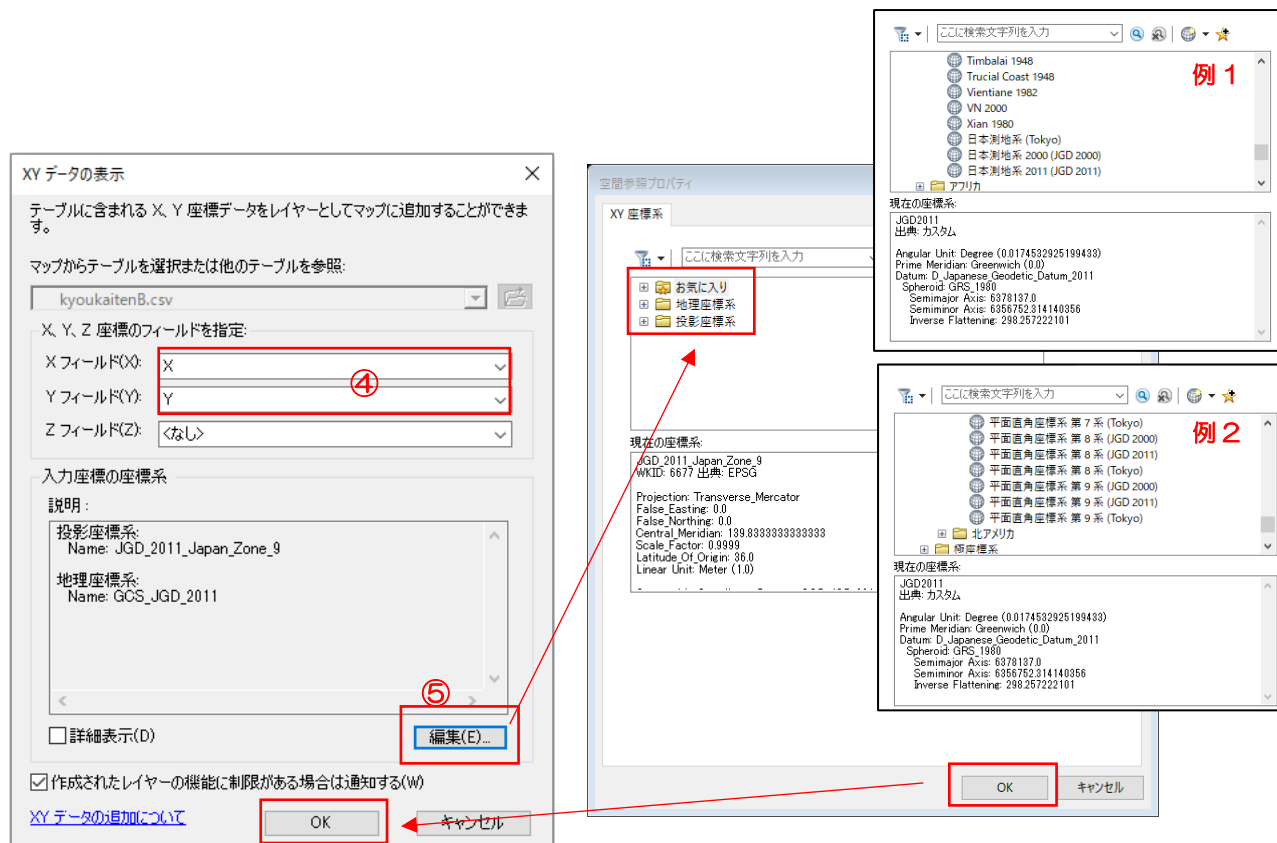


図 5.2-9 ArcGIS の操作 2

- ④ 【X フィールド・Y フィールド】 CSV の座標値が記載された列を選択 (図 5.2-10)
「X フィールドに”Y 座標値”」を「Y フィールドに”X 座標値”」を選択する
- ⑤ 【座標系】編集>地理座標系・投影座標系から CSV の座標値の座標系を選択 (図 5.2-10)
- 例 1) JGD2011 の場合: 地理座標系>アジア>日本測地系 2011
- 例 2) JGD2011 9 系の場合: 投影座標系>各国の座標系>日本>平面直角座標系第 9 系 (JGD2011)



- ・ポップアップは OK を選択する

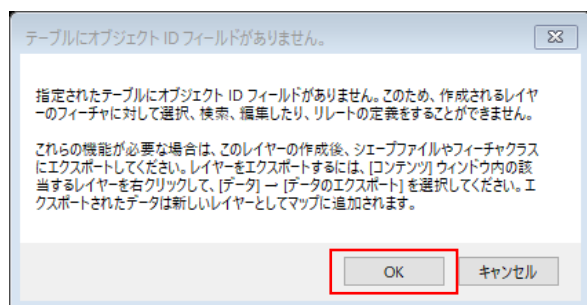


図 5.2-10 ArcGIS の操作 3

● 読み込むデータがシェープファイルの場合

- ① ArcGIS を起動する
- ② エクスプローラーで対象データを表示させる
- ③ 拡張子が「*.shp」のファイルを左クリックしながら掴んで、左クリックのまま ArcGIS の中央まで持って行き、左指を離す（図 5.2-11）。（ドラッグ&ドロップする）

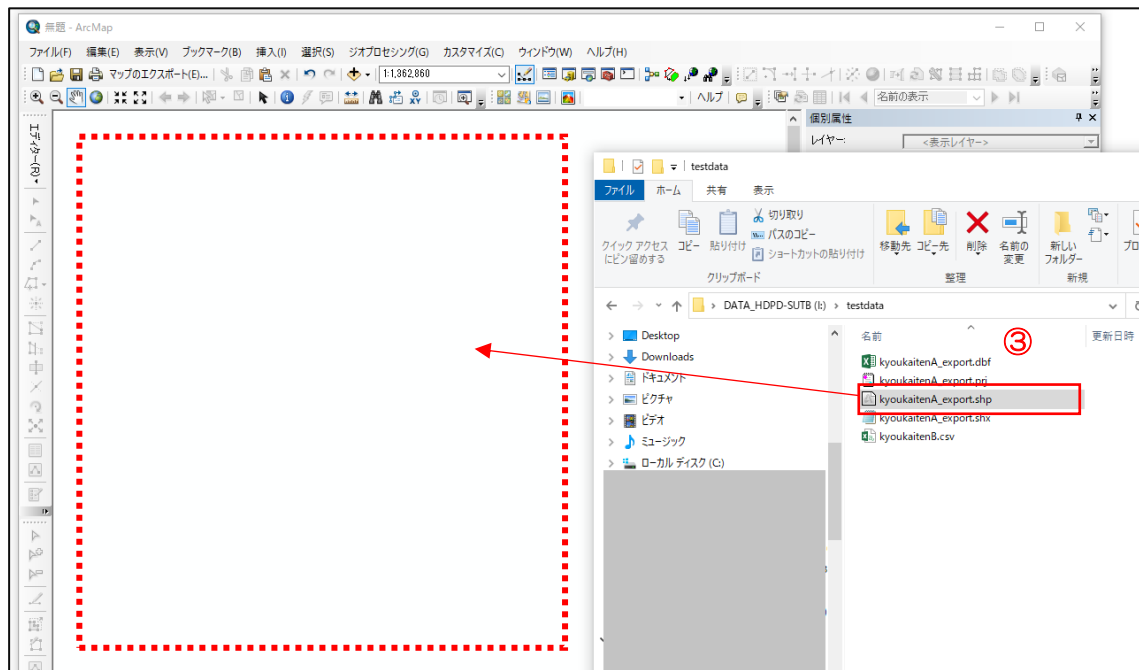


図 5.2-11 ArcGIS の操作 1

● シェープファイルに変換する

- ① 読込んだデータを右クリックし、 データ>データのエクスポート を選択
- ② 【出力フィーチャクラス】 変換したデータの保存先を選択 (図 5.2-12)
- ③ 【名前】 変換したデータのファイル名を入力 (図 5.2-12)

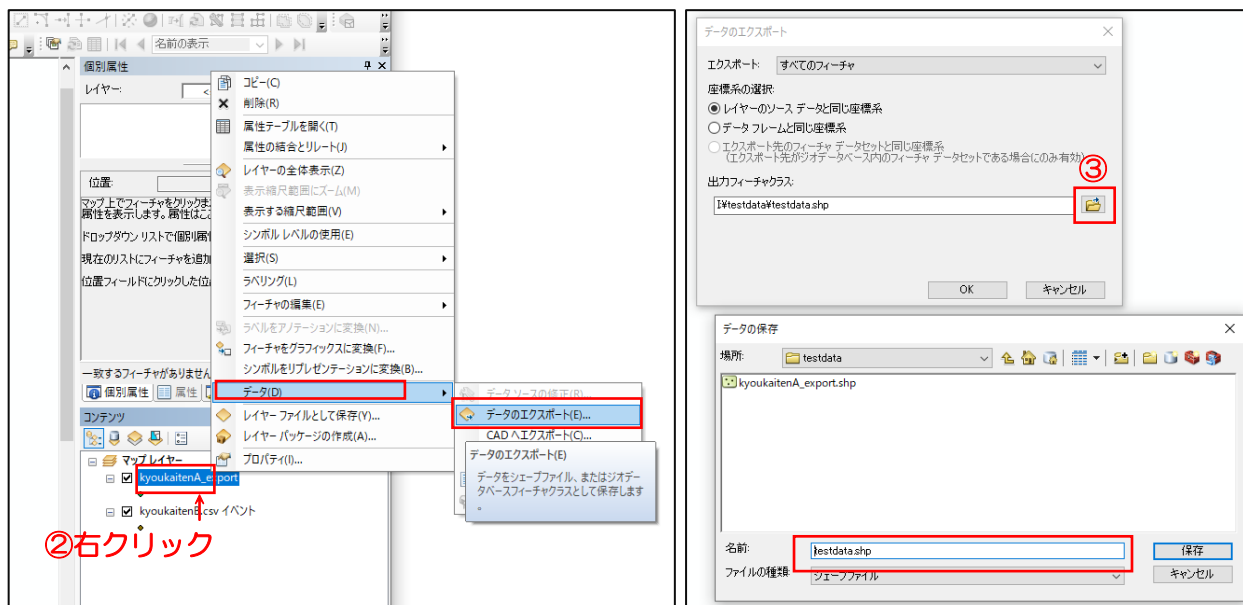


図 5.2-12 ArcGIS の操作 2

① ArcToolbox を開く

③ **【レイヤー】** KML に変換したいファイルを選択

変換したデータを確認したい場合：

QGIS に拡張子が「*.kmz」のファイルをドラッグ&ドロップして表示させる。

なお、ArcGIS では KML を表示して確認することはできない。

